

事業所における自己評価結果(公表)

【放課後等デイサービス】

公表: 令和4年 2月 10日

事業所名: たにやまたんぽぽ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			新しい建物に移転し、集団にも対応できる広いスペースや個別指導用のスペースなど以前より活動スペースを多く確保することができている。	
	2 職員の配置数は適切であるか	○			療育内容や利用児の状況に応じ、個々に合った職員体制を整えている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○		移転により園と共同で使用した車椅子専用のトイレがなくなり、段差のある出入り口もあるため、今後改善できるところはしていきたい。
業務改善	4 業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			指導後や職員会議の中で、現状と目標を検討し、改善に努めている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			要求があり次第、早急に面談を行い、改善に努めている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			自己評価の結果を定期的にホームページで公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○		第三者評価の実施できる体制を整え、日々のサービス提供、業務改善へとつなげていく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか			○	他事業所の見学やリモートによる研修会の参加などコロナウイルスの感染予防にも努めながら、できる範囲での情報交換を行っている。	例年は積極的に研修等に参加する機会を多く設けていたが、コロナウイルス感染予防のため、オンライン研修会等への参加を検討している。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			相談支援専門職員との情報交換、共有を図り、利用時の状態、保護者の意見などを渡し、得られたニーズに沿った支援計画の作成に努めている。	利用児の状態や年齢に応じ、必要な支援・目標を設定し、今後を見据えた支援をしていく。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			行動観察によるアセスメントツールを使い、状態を把握している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			担任や担当を決めず、チームで利用児を把握し、支援計画を作成している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			目標を設定した中で、担任や担当を決めず、様々な指導を行うことで、固定化されないようにしている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			一年を通じた計画的なプログラムを組んでいるが、長期休暇中は、学校の課題のサポートも行っている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			放課後等デイサービス支援計画に基づき、利用児の実態に応じて個別療育・集団療育を組み合わせて行っている。	利用児の状態に合わせて、支援内容を検討し、引き続き個別と集団療育を組み合わせて行っている。
	15 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			職員同士で担当すべき内容を決め、適切な指導ができるようにしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			終了後、利用児の状態や支援内容の確認・報告を職員間で行い、次の指導に必要な点の打ち合わせを行っている。	職員間で情報共有し個々にあった課題や教材の選択や活動につなげていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			支援内容、状態の記録を徹底して行っており、職員間で利用児の個々の状態や指導内容を共有している。	職員が個々の状態をしっかり把握できるように記録は詳細に記述し、支援記録をもとに支援計画検討会議での資料として活用し、適宜、計画の検討、改善のできる体制を継続していく。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			保護者と情報交換を行い、今後の支援に必要な内容を検討している。	必要に応じて、家庭だけでなく、学校とも連携をとるようになる。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	○			放課後等デイサービス計画検討会議では、児童発達管理責任者を中心として、ガイドラインの総則の基本活動を確認しながら、利用児に合った支援計画を共有している。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			利用児の状態や今後の支援内容を把握できている者が参加している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか		○		行事等の学校での様子を保護者からお聞きしている。	学校との直接的なやりとりは多くないため、今後情報交換に努めていく。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか					
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			利用が終了した児童でも、必要に応じて連携がとれるようにしている。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○		福祉サービス事業所への移行までは行っていない。必要に応じて、情報の共有や目標設定のサポートを行うようにしていく。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		資料や電話での情報交換は行ったが、新型コロナウイルス感染予防の関連で研修会への参加が難しかった。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○		様々な児童との交流ができる場を作れるように、検討していく。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○		新型コロナウイルス感染予防のため、参加が難しい。
保護者への説明責任等	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			課題や家庭での支援ポイントを指導後に伝え、保護者と一体となった指導ができるようにしている。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			家庭での支援ポイントや今後の見通し等を話している。	保護者(ご家族)に対し、ペアレントトレーニングの研修案内等の配布を行っている。
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			利用計画書、契約書、重要事項説明書の説明を行っている。また、変更があった場合には文章にて伝えている。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			面談だけでなく、メールや電話も利用しながら迅速に対応できるようにしている。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	以前、保護者会を開催した事もあったが、利用児の実態等それぞれ異なる部分もあり、積極的な開催は行っていない。保護者同士が交流できる部屋は設けている。	新型コロナウイルスの影響で保護者同士の交流が難しいが、今後も必要に応じて保護者同士が情報共有できる場を設けていけるようにする。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			相談、苦情窓口や担当者を掲示している。それぞれの対応についてはマニュアルを整備し、職員間の共通理解を図りながら対応している。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか			○		個別療育が主体であり、個々に応じた活動を行っているため、活動概要等は記載していない。活動内容はそれぞれで異なる。
	35 個人情報に十分注意しているか	○			プライバシーの配慮等、職員への周知徹底や、保護者に対しても契約書に記載している。	
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			視覚的アプローチ等による支援を行う、利用児に合った支援を行い、意思の疎通に繋げられるようにしている。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っているか			○		学習介入や行動介入を主に指導を行っている。そのため、地域との交流は行っていない。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			各種マニュアルを整備し、職員への周知を図っている。	学園の対応に沿って対応する。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			園の避難訓練の様子を情報共有し、また事業所内でも時間を設け、訓練するようにしている。	園外の利用児に対しては、事前に避難訓練を行う旨を保護者へお伝えし、訓練後に利用児の様子等、連絡するようにしている。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○			例年は研修会へ参加していたが、新型コロナウイルス関連の影響もあり、参加が難しい。リモート等での研修には参加していきたい。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○				職員間での周知徹底は行っている。現状としては身体拘束が必要な児童の利用がない為、計画には記載していない。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			事業所では食事等の提供は行っていないが、保護者からの情報を職員間で共有している。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			記入用紙を作成し、設置してある。通所記録用紙にも記入欄を設けている。	実際にヒヤリハットの記入はないが、今後ヒヤリハット事例集を作成し共通理解を図っていく。

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)